

東日本大震災アーカイブシンポジウムを開催しました(2013/1/11)

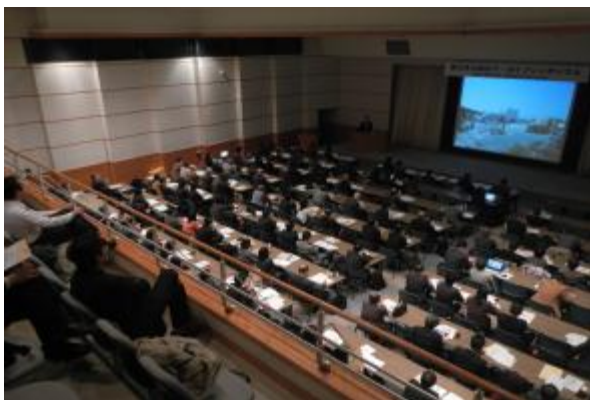
テーマ：災害アーカイブ，被災地交流

URL：<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/symposium/sympo20130111>

1月11日（金），仙台国際センター（宮城県仙台市）で「東日本大震災アーカイブシンポジウム—過去と現在の記憶・記録を未来へ伝えるために—」（主催：総務省，東北大学災害科学国際研究所，東北大学附属図書館，後援：国立国会図書館）が開催されました。本シンポジウムは，昨年の1月の「東日本大震災アーカイブ国際合同シンポジウム—東日本大震災アーカイブの最前線と国境・世代を超えた挑戦—」，7月開催の「東日本大震災アーカイブに関する国際サマーカーンファレンス」にひきつづき，第3弾となります。

第1部は「阪神・淡路大震災の取り組み」として，阪神・淡路大震災における記録に関する諸活動について，3つのご講演，第2部は「東日本大震災の取り組み」として，東日本大震災におけるアーカイブ活動の現状や各地の事例と課題に関する発表，さらに第3部では，登壇者全員によるパネルディスカッションが行われました。第1部では阪神大震災を記録しつづける会・高森順子様からは被災者された方による手記等について，西宮市総務総括室情報公開課・米田実様からは写真のデジタル化と電子公開等について，北淡震災記念公園・米山正幸さまから野島断層保存館の取り組みやご自身の語り部活動等についてご講演いただきました，第2部では，総務省，国立国会図書館のほか，青森県，岩手県，宮城県，福島県の取り組みの概要（今年度運用モデルとして活動開始）について紹介されました。パネルディスカッションでは，阪神・淡路大震災と東日本大震災の被災地それぞれの場所居で抱えるアーカイブ活動の諸問題や今後の連携について議論されました。本学からは，今村教授が冒頭の挨拶とパネルディスカッションでのモデレーターをつとめ，柴山准教授が宮城県の事例紹介，佐藤翔輔助教が司会を務めました。

当日は，約200名の来場をいただきました。各講演に使用された資料は，今後，上記URLにアップロードされる予定ですので，ご覧ください。



会場の様子



パネルディスカッションの様子

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）